

人間じんかんにう生まれて "つながりを生きよう" 314

ほとけさま助けて！

と恥ずかしながら

南無阿弥陀仏、たすけて！

と念仏しました。

定例聞法会

夏野了さんのお話から

いつまで続くのか終わりの見えない暑さに、お参りに行くたびに「今日も暑いですね」と挨拶してた毎日でした。

九月に入っても気温が三十度を超える日が二十日以上ありました、降水量も少なく用水の水も浅く、上流のダムの貯水量が少なくなっているのではないかと心配になりました。水の調整をされている方のご苦勞を思いました。

彼岸のころから、朝晩は冷

えるようになって来ました。

真敬寺の西側に田があります。時々その畦の草を刈ります。今年刈っていると、田の色が一部茶色くなって見えたので、よく見ると、ひえが生えていました。小学生のころ家族に誘われて、田の草取りにひえを取っていたことを思い出して、数十年ぶりにやってみましたが、カップを着て慣れない田に入って、ぬかるみながらひえを根から取っていると、二時間も続かず、汗びっしょりに

なりました、後日、皆さんから

ひえの取り方を習い、鎌を使って刈っていきましたが幸いにも一時間ほどで刈れました。

米には八十八の苦勞がかけられてあると聞きましたが、その苦勞を思うと、これまでの農家の方のはかりしれない苦勞と現在の方々のご苦勞が思い合わされてきました。時々思い出してお米のおいしさをかみしめていきます。

10月真敬寺行事予定

- 1日(日) 日曜学校 午前9時
 1日(日) 真宗教室⑤ 午後2時
 大経上巻のお話し⑤阿弥陀経の話
 15日(日) 正信偈の会 午後1時30分
 16日(月) 報恩講 午後1時30分
 講師 立野 壽 さん
 17日(木) 報恩講 午前9時30分
 午後1時30分
 講師 山本龍昇 さん

定例聞法会の聞書

立教開宗の意義

夏野 了 (なつのおきとる)さん

高山市満成寺住職



この度の縁をいただきまして、どのようなお話をしたらよいかと高山別院の御輪番さんに相談をいたしましたら、「行に迷い、信に惑い」というテーマで話されたらどうかとご助言いただきました。親鸞聖人も二十九

歳で法然上人の門を叩かれてから九十でお亡くなりになられるまで、一生を通してこの「行と信」の問題について問うていかれました。念仏が本当に仏の願いにかなったものであるのかどうか、聖人が死ぬまで問うていかれた課題です。

昨今「信に惑う」ということが気になっております。「惑う」という字は漢字を分析すると「或+心」となっています。「或」は「うたがう」という意味だそうで、「惑う」とは「心がうたがう」という言葉だそうです。

私、今年の2月に病院で癌の告知を受けましたが、まだ死にたくはない。父は九十四歳で亡くなりましたが、私まだまだ父が亡くなった年よりも三十も若いので、死ぬのはまだ早いと思いましたが、そしていろんなことが

頭をよぎりました、家族のこと、お寺のこと、仕事のことを思いまして、ああ、死にきれんなあ、なんとか生きたい、「仏さま助けてーと恥ずかしながら、南無阿弥陀仏、たすけてー」と思いました。お念仏がそういうものではないことは重々にわかっているのですけれども、心の隅で、わらをも掴む思いで苦しい思いをしました。

覚悟して金沢の大きな病院に行くまでに、不思議といろんなものの方が変わってきました。たとえば周りの風景も、何気なく見ていたものが、これで見納めかなと思う気持ちもあり、すごく新鮮に見えました。足下に歩く虫をみても、草花を見ても一つがその名前としてではなく「いち」そのものとして見る事ができるようになりました。妻の一言二言もカチンとあらがっていたのが素直に心

に落ちるようになったり、ありがたいという感謝の気持ちが生じるようになりしました。告知をいただいてからは、景色や言葉の一つ一つがほんとうに「有り難いな」と素直に思われるようになりしました。

私の癌は、手術もできず放射線治療もできず、薬の治療だけで、今はだるいながらもなんとか過ごしております。2月に告知を受け、今は9月ですが、だんだんあの時の心が薄らいできています。私の性根(しょうね)でしようか。今は月日が経って妻の言葉にも業(ごう)がわいてくるのが度々あります。

私たちは、日々「不安」を抱えて生きています。不安があり、安心のために自分でできること(自分の力)を精一杯して、とにかく、不安を何とかし

ようとしているのが私たちの日々の生活です。人間の性根です。皆さんにも今まで人生の中でいろんな不安があったのではないのでしょうか。

自分の力でできることは多々あります、けれどどうしようもないことつてあります、自分の力ではどうしようもないことは、若いうちはなんとかするだろうと思ってみたり、うまくいかないのは自分の努力が足りなかったからだと思ったりして自分を納得させて生きているのが、ほとんどの方々です。

こういう人生を歩いて行くと落とし穴があるんです、「たよりにするのは自分の力」「自分の力がおよばないことは本物ではない」と、自分の人生の中に自分の「都合」という「物差し」を作っていくのです。しかしながら、どうしたって、不安、心配の無い人生

つて無いんですよ。

お釈迦様は、私たちが生まれて逃げることでできない「生老病死」を、絶対に関心のない力で超えられないものと教えてくださいます。

ところが、私たちは人間関係など生きていく上で必ずあうこと、老いていくこと、病にかかること、そして死ぬこと、このことさえも自分の力で何とかしようと、都合の物差しで測っています。

自分の力でなんとかなると思っているうちは、お寺へも足を運ばないし、「南無阿弥陀仏」、そりゃなんじゃと、



自分の都合の物差しで「南無阿弥陀
仏」を測っているのです。そんな、なん
とかなる世界に私たちは生きてい
るのではないですか？

ある座談会で今一番気になること
は何ですかということでした。死
ぬときは人に迷惑を掛けたくない
ことでした。

死に方さえも自分の都合、自分の物
差しで測っています。全てご縁なの
に。

この後、そのことに気づかせていた
いた、中村久子さんを紹介します。

(法話の続きは動画をご覧ください)

実際のお話は
YouTubeで



10月は報恩講をおつとめします。

16日(月)午後1時半 宗祖親鸞聖人拝読・説教

講師 立野 寿氏

17日(火)午前9時半 晨朝勤行・説教

午後1時半 日中満座勤行・説教

講師 山本 龍昇 氏

『我、濁世を生きん』

— 知恩報徳とは? —

お寺はどなたでも来ていただけるところです。

気軽にお誘いあわせてお参りください。

24日の仏具みがきは、役員およびご近所の女性の方々に来ていただき、ありがとうございました。参加人数が多かったため、仕事はかどおり、いつもより短い時間で終わることができました。茶話会も楽しかったです。

16日まで、掃除やお荘厳の準備を少しずつ始めています。皆さんにも集めもの等、いろいろお世話になります。よろしくお願ひします。

今年も変わりなくよい報恩講を迎えられますよう。

南無阿弥陀仏

(坊守より)

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440
真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修
0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692



shinkyouji.com

検索

